

令和8・9年度市町村立美術館活性化事業 第25回共同巡回展

『びじゅつって、すげえ！～大分県立美術館の「教材ボックス」を通して～』展（仮称）

〈企画について〉

美術館の来館者は、美術作品が何を表現しているかには関心を寄せていても、物理的に美術作品を成り立たせている画材や素材といったモノに対しては、意外と無関心なことがあります。しかし普段はあまり気にとめないモノも、見方を変えると今まで気づかなかったモノの意味や表情が見えてくることがあります。さまざまな美術の表現を支えてきた画材や素材の、モノとしての成り立ちや特徴を知り、長い歴史の中で加えられてきた人智や人間の細かな配慮や技術の確かさを知る、つまりモノと人との関わりに注目して作品をみることは、美術を能動的に“視る”楽しみを発見することにつながるでしょう。

大分県立美術館では、こうした画材や素材を発見するための「教材ボックス」を所蔵し、教育普及活動の場で展開をしています。また、アーティストに直接作品制作を委託した『触る・触れる教材[Hands on Works]』と現代美術を中心とした「利岡コレクション」があります。

この度は、日本画や洋画など、様々なジャンルの作品に対応したこの「教材ボックス」に加え、「触る・触れる教材[Hands on Works]」と「利岡コレクション」を借用し、作品を“視る”楽しさや表現の多様さを伝える巡回展を企画します。参加館それぞれで自館のコレクションを加えて展示するという展開も可能です。

アドバイザーには、大分県立美術館の教育普及室中嶋健太氏に就任いただく予定です。担当学芸員は、共に出品作品を検討して展示を構成し、この展示にふさわしい教育普及プログラムも作り上げ、運営までを協働します。

参加館は、これまでと違う視点で作品を紹介すること、さらに教育普及活動につなげることで、多角的かつ奥行きのある展覧会を開催することができるでしょう。

教材ボックスって？

大分県立美術館の教材ボックスは、日常の中に在る様々なモノに目を向ける好奇心や能動的な視点の確立を目指し、身近なモノやコトを“美術的視点”でとらえて視ることの楽しさを来館者に伝えるべく制作しました。①天然顔料に焦点を当てた「ストーンボックス」、②身近な植物由来の「プラント&メディソン・ボックス」、③作品の一素材である炭酸カルシウムをピックアップした「CCボックス」、④作品の“制作工程”や“素材・技術・表現の関係”、そして“手技と道具”をテーマとした「マテリアル&テクニク・ボックス」のほか、各要素を凝縮した携帯用ボックスもあります。



〈開催時期〉 令和9年度(令和8年度は準備年に当たります)

〈事業主体〉 第25回共同巡回展実行委員会(参加決定後、令和8年度に全参加館により組織します)

〈助成〉 一般財団法人 地域創造(準備年、開催年の2か年にわたり助成します)

〈出品物・作品〉 大分県立美術館が所蔵する以下教材・作品

①教材ボックス ②触る・触れる教材[Hands on Works] ③利岡コレクション

触る・触れる教材[Hands on Works]って？

美術館の作品は触れないものがほとんど。そんな作品たちを「触ってみたい」と感じる鑑賞者の気持ちを大切にしたい、という思いから生まれたのが、大分県立美術館オリジナル教材「触る・触れる教材 [Hands on Works]」です。

触覚で楽しむ立体作品から、「触るように見る」が如く目を凝らして視覚で楽しむ平面作品まで、その種類は様々です。

[Hands on Works] 青木美歌

触る(さわる)と触れる(ふれる)といった繊細な感覚を使い分け、見て・触ってを繰り返す、いわば視覚と触覚を行き来しながら楽しむ作品鑑賞は、人間の身体感覚はもとより、感性を研ぎ澄ますことにつながります。[Hands on Works] との出会いや触れ合いは、感性が豊かになり、鑑賞者が自分なりの視点を獲得するきっかけをもたらすでしょう。

[Hands on Works] 谷本めい

<所蔵作家名>

青木美歌（ガラス）、市川平（特殊照明）、井上雅之（陶）、大竹亮峯（木彫）、小川信治（鉛筆画）、川島逸郎（生物標本画）、木島隆康（テンペラ画）、小林敬生（木口木版）、小松誠（陶磁）、佐野藍（石彫）、谷本めい（石彫）、妻木良三（鉛筆画）、時松辰夫（木工）、中井川由季（陶）、橋本真之（鍛金）、矢島由佳（変形菌）、横尾哲生（木彫）

利岡コレクションって？

現代美術コレクターの利岡誠夫^{としおかのぶお}氏（1926-2018）がおよそ30年かけて収集し、2013年に同氏より大分県に寄贈された現代美術作品や民俗資料から成る「利岡コレクション」。国内外の様々なアーティストたちの創造性豊かな独自の世界観をみることができます。素材や技法、仕掛けなどアーティストたちによるユニークな発想を紹介することで、より一層アートに親しむ展示空間が出来ます。

小川信治
《PERFECT SOUVENIR KRAKOW》2008年

坂井淑恵《おうち》2012年

<所蔵作家名>

青木野枝、浅野弥衛、小川信治、O JUN、菊畑茂久馬、坂井淑恵、杉戸洋、スージー甘金、辰野登恵子、中西夏之、奈良美智、藤本由紀夫、丸山直文、三島喜美代、四谷シモン 他